

令和3年（2021）

■ 12月1日（水）

冬とは思えぬ汗ばむ陽気の中、今年度の現地調査が完了しました。

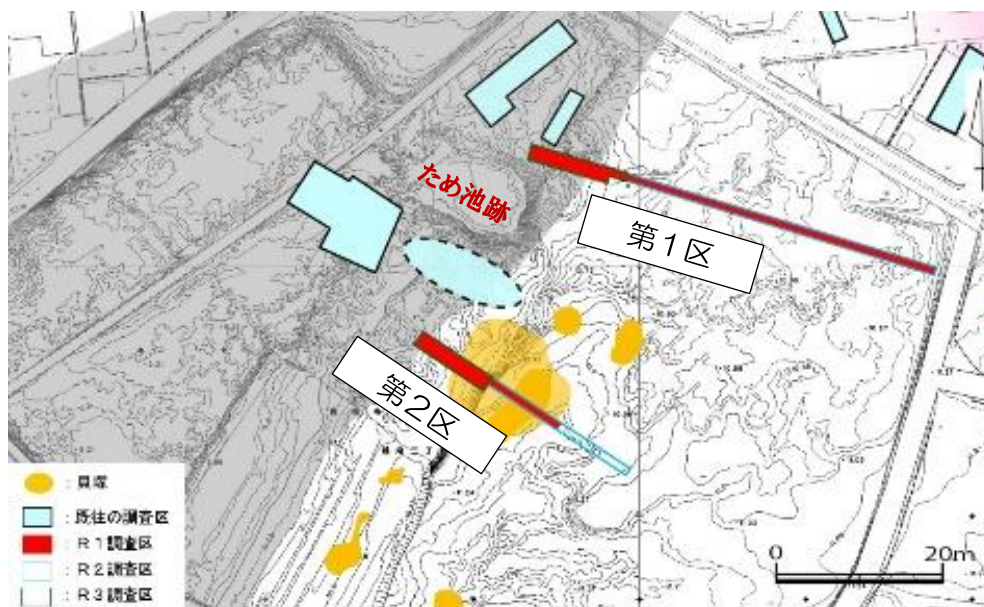


図1 調査区の位置

① 土層断面の記録作業

掘削を伴うすべての調査を終了した後、土層の堆積状況を記録する断面図の作成を1区（北側調査区）（写真1・2）、2区（南側調査区）（写真3・4）それぞれで行いました。

断面図の作成にあたり、調査区の壁面に水糸を水平に設置しました。水糸の水平ラインと土層の傾斜面を比較すると、縄文時代の斜面堆積層がいかに急傾斜をなしていたのかがよくわかります（写真1・2）



写真1 土層断面の記録作業（1区その1）



写真2 土層断面の記録作業（1区その2）

令和3年（2021）



写真3 土層断面の記録作業（2区その1）



写真4 土層断面の記録作業（2区その2）

令和3年（2021）

土層の記録作業を完了した後、遺構の保護と来年度の調査にそなえ、調査面を土嚢で保護し、その後ブルーシートで養生しました（写真5・6）。

次に、その上に掘り上げた土を入れて、埋め戻し作業を実施しました（写真7・8）。



写真5 土嚢とブルーシートによる遺構保護 ①



写真6 土嚢とブルーシートによる遺構保護 ②



写真7 ブルーシートによる養生 ①



写真8 ブルーシートによる養生 ②

埋め戻した後は、調査前と変わらぬ緩やかな斜面に戻りました（写真9・10）。とても2m以上の深さのある傾斜面が存在していたとは思えません。



写真9 埋め戻し後 ①



写真10 埋め戻し後 ②

来年度は引き続き両地点の調査を行い、真福寺縄文人たちの活動で変容する以前の谷地形の復元と、縄文時代の活動状況の解明に挑みます。来年度の調査にご期待ください。